

ある闘争

—日本の新型コロナ問題の真実—

金融アナリスト

永山卓矢

【動かぬ日本が生み出すある危険】

株価が高騰している。その原動力になっているのは、新型コロナ禍を受けてトランプ政権が矢継ぎ早に財政出動政策を打ち出したのに歩調を合わせて、F R Bが超大規模な金融緩和策を打ち出している事だ。

2~3月に株価が大暴落したのを受けて、F R Bは迅速に政策金利をゼロ金利に引き下げ、更に無制限に資産購入を推進した。その結果、F R Bの総資産は一気に日銀を抜いて史上最大になつただけでなく、国債を800億ドル、住宅ローン担保証券(M B S)を400億ドルと、最低でも毎月1,200億ドルもの資産を買い入れる事になっている。それ以外にも他の資産担保証券(A B S)や社債も購入していく事になっている。

多くの識者は、米国始め先進国の経済実態は経済活動を再開させた事で回復しているものの、新型コロナ禍に襲われる以前の状態には程遠い中で、株価は上がり過ぎており、いずれ急落する事が避けられないと見ているようだ。ただ留意する必要があるのは、株価は実体経済の先行指標であって遅行指標ではない事だ。これから資産価格が高騰していく事により、家計の消費意欲が喚起されていく事で、米国経済は回復傾向を強めていくのだろう。

とはいえ、いかに米国は基軸通貨国であるとはいえ、世界でも圧倒的な貯蓄不足国(債務大国)が政府部門の財政赤字や中央銀行の総資産を飛躍的に膨張させている事で、将来的にドル不安に陥る懸念が拭えない。これまで、F R Bが大規模な金融緩和策を推進した際には、必ず世界でも群を抜く貯蓄超過国(債務大国)である日本の日銀にそれ以上の緩和策をさせる事で、ドル不安に陥るのを回避してきた。1987年10月19日に株価が暴落した際には、日銀が当時の政策金利である公定歩合を2.5%と超低水準に引き下げた事で日本ではバブル経済化が醸成された。

また2000年代前半には、F R Bは政策金利をインフレ率を下回る水準に引き下げたが、当時も日銀が当座預金残高を30兆~35兆円まで積み上げる事で量的緩和策が強化された事からドル不安に陥らなかつた。日本が圧倒的な原油輸出大国であるサウジアラビアと共に、米国が世界覇権を維持していく上で中核的な属国と言われる所以である。

ところが今回は、日銀は国債購入額の上限を撤廃したものの、買い入れる国債がないために量的緩和策を強化出来る状況はない。安倍政権は「史上最大規模」と銘打った財政出動政策を、補正予算を2回組んで実施したものの、米トランプ政権が打ち出したものに比べるとかなり小規模なものに過ぎない。

おそらく、親イスラエル左派的で社会主義的、リベラル的なコスモポリタン志向で米国の世界覇権の維持を望んでいる米軍産複合体の直系であるグループ・オブ・サーティ(G 30)の意向を受けて、日銀の黒田総裁はできる限り量的緩和策を強化したいと思っているのだろう。しかし、トランプ大統領と共にその背後に親イスラエル右派的で国家主義的、民族主義的なナチズム系の権力者層が背後に控えている安倍首相が、自身の体調が優れない事も利用しながら、全く臨時国会を開会して動く気配を見せないため、日銀がこれ以上、量的緩和策を強化出来ないのである。

【新型コロナのもう一つの目的】

これまで当欄で述べたが、遺伝子操作により誕生した生物兵器である新型コロナウイルスが投入された目的は幾つかある。ただその中で最も重要なのは、中国との間でデカッピング(分断)化を推進する事であろう。

ただそこにも、安全保障面と経済・通商面での二つの意義がある。先ず経済・通商面では、中国沿海部を生産工場に据える事でサプライチェーンの中核とするグローバル生産体制を崩壊させる事である。

それによって米政府は渡航禁止措置を打ち出した。そうする事で、米多国籍企業は生産拠点をほぼ米国内に回帰しているか他の地域にシフトしている。

安全保障面では中国との間で「新冷戦」構造を構築する事であり、それは新型コロナ禍により米中間の対立が一段と激化しているのに見られる通りだ。新型コロナへの対応を巡り、中国では発生地である武漢を強制的に封鎖して感染を抑え込んだ中で、習近平国家主席は全体主義的な共産党独裁体制の優位性を主張したのに対し、トランプ大統領始め米国側は独裁体制による隠蔽体質が初動を遅らせて世界的にウイルスを蔓延させたとして非難したものだ。

今回、新型コロナウイルスが投下されたもう一つの大きな目的として、将来的に米ドル基軸通貨体制を動搖させる事で米国の覇権を弱体化させる事を付け加える必要がある。

トランプ政権が矢継ぎ早に大規模な財政出動政策を打ち出し、それに応じてF R Bも強力に金融緩和策に動いているのも、それと対照的に安倍政権がこれ以上、追加対策に動かないのも、両首脳の背後に米国の覇権を弱体化させようとしているナチズム系の権力者層がいる事を考えれば得心がいくというものだ。

この新型コロナの投入は、ナチズム系の中でもキッシンジャー元国務長官の路線に反対している勢力が、最先端の遺伝子操作の化学技術を有する米軍産複合体の勢力と提携する事でもたらされたものだ。米中貿易戦争の時もそうだったが、ナチズム系と軍産系は表向き中国を攻撃する事では一致しているものの、最終的な目的意識が異なる“同床異夢”的関係にある。軍産系は米国の覇権を維持するために中国を撃滅しようとしているのに対し、ナチズム系は将来的に中国に覇権を明け渡すにあたり、その過渡期の形態として巨大な軍需を創出するために中国との間で「新冷戦」体制を構築し、“ヤラセ”的軍拡競争を繰り広げようとしている。

【日本で繰り広げられる闘争】

そこで今回、注目する必要があるのが日本に対する姿勢である。

軍産系としてはドル基軸通貨体制を維持するためには、日銀がさらに強力な量的緩和策を推進出来るように日本政府に追加的な財政出動政策を実施させる必要がある。そこで軍産系が多く主力メディアや報道機関を押さえている中で、ゲスト出演している専門家や識者は新型コロナの脅威を煽る悲観論者だけで占められており、必要以上に高齢者を中心に悲観的な雰囲気が煽られている。本当は新型コロナの重症化率や致死率は季節性インフルエンザとそれ程変わらず、経済活動の自粛に反対して集団免疫路線の推進を主張している専門家が登場する事は殆どない。

政治家レベルでも、米軍産系につらなる小泉元首相の系列である小池知事が率先して感染対策を強化し、東京都の経済活動を停止させようとしている。これに対し、新型コロナに対する誤った認識が一般化しており、高齢者を中心に恐怖心が強まっている中で、ナチズム系が背後に控えている安倍首相はじめ官邸の勢力は一般論者から「無為無策」と批判されながらも、特に表立った政策を打ち出さない事で密かに集団免疫路線を推進している。

観光業界への支援を目的としている「Go To キャンペーン」が実施されているのは、その業界から献金を受けている二階幹事長の意向によるものだが、官邸はそれを集団免疫路線の一環として全国的に感染を拡大させる手段として利用しているようだ。

いわば、米権力者層の間ではナチズム系と軍産系による暗闘劇が行われている中で、将来的なドル基軸通貨体制の存続を占うドル不安の到来を巡り、足元の日本で重大な闘争劇が繰り広げられている訳だ。私たちは連日、主要メディア・報道機関で放映されている事で、意図的に必要以上に煽られている新型コロナに対する恐怖心や悲観論に惑わされないようにしなければならない。

永山卓矢の「マスクが触れない国際金融経済情勢の真実」

<http://17894176.blog.fc2.com/>

★テクニカル

次のステップアップへ

先週の日経平均株価は2月21～25日のギャップダウン(23,378～22,950)に阻まれながらも、トライアングル上抜け時のギャップ22,874～23,111は辛うじて引け値(20日22,880)で維持している。相場はギャップとギャップの狭間で苦闘しているが、まさに「前門の虎、後門の狼」といった状況。

チャートのトライアングル系の調整がレクタンブルへと転じる可能性はあるが、今週どちらかのギャップを引け値で埋める動きが日経平均の目先の方向性を示唆するだろう。

先週の波動カウントが正しければ、この調整後は上放れを実現させると予想される。その目標値24,916±378に変更はない。前々回だが大局観で見た4年サイクルの目標はさらなる上値になる。即ち「この場合、現行4年サイクルの目標値は単純に前4年サイクルの上昇幅の1.618倍を現行4年サイクルの起点から加算すれば31,865±1,130」。

この強気シナリオは15カ月移動平均を下回るまでは有効であり、その天井は2022年9月～23年3月に出現するとの考

え方も依然として有効だ。トライアングル内に回帰すると調整の時間は更に1カ月ほど長引く恐れがある。しかし強気シナリオはトライアングルを下抜け(21,500以下)ない限り有効である。なお、23,500以上の動きはトレンド再開のシグナルになりそうだ。特にこのレベルでギャップアップがあればなおさら確信が持てる



投資家Sの今週の注目銘柄

ファイバーゲート

ファイバーゲート【9450】は2018年に東証マザーズ上場。そこから僅か1年で東証1部へ鞍替え上場した成長著しい企業。提供商品を一言で表すとWi-Fi(公衆無線LAN)となる。

2000年の会社設立から一貫して集合住宅の通信を手掛け、直近5年は集合住宅向けのレジデンスWi-Fiと商業施設・観光施設向けのフリーWi-Fiの設置で業績を伸ばしている。8月18日に行われた決算説明会に出席する為、本社がある札幌まで足を運んだがその価値は充分にあった。当社のビジネスは、Wi-Fiの使用料というストック型の収益と、Wi-Fi工事敷設時に設置を行う通信機器販売の二本立てとなる。今回のコロナ禍においてリモートワークを始めた方も多いと思うが、リモートワークを行うのに必須となる環境は2つ。それはパソコンとネット回線(Wi-Fi)である。パソコンは会社支給のノートPCを持ち帰って仕事は出来るが、問題は通信回線である。仕事で使用する通信回線となるとデータのやり取りも多く、ポケッ

トWi-Fiでは限界があるのも事実であり、筆者も5月にWi-Fi回線の増強を実施してリモートワーク環境の改善に取り組んでいた。当社のレジデンスWi-Fiは、withコロナ時代に極めてマッチしており、事実、2020年6月期4Qの業績も減速しておらず、成長を持続している。問題は、インバウンド顧客の増加を背景として拡大していたフリーWi-Fi事業であり、こちらは4Qの新規案件がほぼ“ゼロ”となった事を会社側が認めており、好悪の材料が入り混じっている状況である。当社は、社長とその資産管理会社が50%以上の株式を保有する、いわゆるオーナー社長が経営する会社であるが、社長の猪又氏の説明は非常に興味深かった。同社長の話では、日本全国で通勤交通費が発生している人口を約4,000万人と見積もっており、平均1万円の交通費がリモートワークによって不要になった仮定とすると、4.8兆円の新しい市場が生まれる事になる。通常1兆円を超える市場が出来上がるには、10年以上の歳月を必要とするが、コロナでリモートワークの流れが加速しており、猛烈なスピードで巨大市場が出来上がりつつあるという事だ。移動を生業とする鉄道・航空等の運輸各社の業績は非常に厳しい内容となっており、移動⇒通信への“費用転化”が起こっているように見える。

当社の売上はまだ100億円程度であり、上記新市場の1%を獲得出来れば、売上はざっと現在の5倍となり、株価もまだまだ上昇の余地が。市場の期待も高く、PERは40倍台後半となっており、将来の大幅な成長を織り込む株価となっている。

2010年代の通信はスマホに代表される移動通信が隆盛を極めたが、“集合住宅向け無線通信”という、“少し古くて新しい”分野にも成長の余地はまだまだありそうである。成長の“門”は常に開かれている—という事を実感させてくれる銘柄である。



金本位制で再生するしかない 金融秩序の崩壊
Vanishing Point of MONEY

マネー消失
最新刊
若林栄四

マネー消失
金本位制で再生するしかない
金融秩序の崩壊
若林栄四
コロナ大恐慌はかけにすぎない
100年ほどの歴史があるが、あたたか
あなたの金融資産も消えてしまう
そして恐慌は三部構成で襲ってくる
ビジネス社

ビジネス社
四六判 並製 244頁
定価 本体 1,500円(税別)

■主な目次
第6章 第5章 第4章 第3章 第2章 第1章
最終章 不毛の米大統領選 没落する資源国 救いようのない日本経済のゆくえ
相場についての考察 強すぎたドルがついに洞落する日 アメリカはすでに恐慌状態に陥った!

2023年まで続く
世界全面ドル安株安の時代を
どう生き抜くのか?

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

今週からは金星トランスレーションも

振り返って見ると、日経平均株価の直近の高値は8月14日。これは恐らく15日の天王星逆行と何らかの関連性を有しているのかも知れない。同時にこれは火星と「山羊座のステリウム」を構成する3惑星とのスクエア(90度)とも関連している可能性がある。先ず火星は8月4日に木星とスクエアの関係になったが、この相場が直近の安値をつけたのが2営業日前の7月31日、先述の14日高値の前日に火星・冥王星スクエアが出現している。もしそうであれば24日の火星・土星スクエア±2~3営業日の時間帯は大小を問わず日経平均株価にとって何らかの反転ポイントになる可能性がある。なお最新の「MMA日経週報」によると、8月24日~9月17日までの間に14もの強力なジオコスミックシグナルが連なっている(これをクラスターと呼ぶ)点に注目していた。そのトップバッターが火星・土星スクエアという事になる。

今週のひき押し

分水嶺に入る

当欄では基本的にユーロ/ドルの買いを推奨。実際、相場は先週18日に1.1964まで上昇して年初来高値を更新している。しかし、15日スローストキャスティクスは依然として7月水準を上回る事が出来ず弱気オシレーターダイバージェンスが発生。先週の当欄では“6日高値を試すか上回る可能性は若干残されているものの、既に3月末の安値から20週以上経過しており、目先の上げの日柄は既に満ちている。恐らく7月31日と8月6日の高値で形成されたダブルトップ、あるいは先週か今週の高値も加えたトリプルトップの形で修正局面に入る”と予測。また8月3日と12日の安値を結んだネックラインの存在を指摘。割り込んだ時点で1~6週間の修正場面が出現する可能性を示した。ただし、その一方で先週は“このネックラインが有効なサポートになっている可能性がある。もしそうであれば、恐らく今週中に8月6日の高値を上回るだろう。その時は目と瞑って買い。1.2000~1.2400の何処かで利食いの

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

8月24日(月) 今週で火星の山羊座ステリウム終了

8月25日(火) 火星/土星スクエア 激震第三弾

8月26日(水) マド開け動きに警戒

8月27日(木) 小動きに終始

8月28日(金) 水は方圓の器に隨う

8月29日(土) 試し玉後、二の矢、三の矢が放てるかが重要

8月30日(日) 週明け流れが変わるか注目

伝説の雑誌の、伝説の連載が全3巻の電子書籍で復活！！



『短期売買100の法則』(増補改訂版) 中原駿著

<https://www.amazon.co.jp>

その相場手法、自分と
しっくりいってますか？

第2巻 短期足とチャートパターン②と
足の足とトレンド判定法

1977~2005年まで発行され、公官庁の実務者クラスや、実際に取引に従事する現役商社マン、株式、為替、債券の各ディーラー、そして百戦錬磨の投資家等々、各方面の第一線で活躍するプロフェッショナル達が執筆陣に名を連ねた伝説の雑誌『商品先物市場』。

この雑誌で連載されていた「短期売買100の法則」では、短期売買を行う上で「何が必要で、何が不要なのか」を具体的に解説いただきました。

その第2巻は、第1巻で解説した「ローソク足とチャートパターン」の続きと、相場サイクルとトレンドの判定についての解説になります。出版直前にコロナ禍による世界的な株式が崩落。書きおろしの序文もあります。

●Kindle価格: 1,214円

投資日報出版社 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE人形町6階 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444 <http://www.toushinippou.co.jp/>

このクラスターの中には、当然9日(日本時間10日)の火星逆行も含まれている。火星に関しては先週の当欄でもこう述べていた“火星は現在牡羊座に入居しており、来月9日には逆行を開始。牡羊座は火星が支配する惑星サインなので、実家に戻っている感じと表現すればよいだろうか。通常よりも影響力が強くなる。また、火星逆行は本年11月まで続くので、その影響で来年1月まで火星は牡羊座に滞在。その間あと2回、山羊座のステリウムの3惑星とスクエアを形成する。それは、現段階で上下どちらかは判らないものの、大きな相場変動が出現する可能性を示唆する”。

このように、強力な天体位相を交点速度が“早い”惑星がなぞる状態の事を「トランスレーション」と呼ぶ、上記の「火星トランスレーション」は10月に再出現するが、その前に「金星トランスレーション」が出現。具体的には25日(日本時間26日)に木星、30日に冥王星、9月2日に土星と、金星はそれぞれオポジション(180度)の関係になる。従って今週は、銘柄を問わず週初と週末、更に来週頭の相場反転に注意する必要がある。

算段をしたい”とも述べた。従って18日の時点で買い参入したトレーダーもいたかも知れない。

ストキャスティクスは%Kが49.87で%Dが63.08でニュートラルゾーン。これは、現在1.1715付近に位置しているネックライン、更に23日移動平均が有力なサポートになっている可能性を示唆。特に前者の水準が引け値で割り込まれない限り、再度反騰して1.2000付近まで上昇して行く可能性が考えられる。従って今週は1.1715以下の引け値にストップロスを入れて買い方針を踏襲したい。

逆に今週ネックラインを引け値で割り込んだ場合、9月下旬までに最低でも1.1580~1.1600、通常で1.1500、オーバーシュートで1.1420~1.1470付近までの修正安があるようと思われる。ただそれは3月からの上げ相場における修正安に過ぎず、これが終わるとそこから1.2500付近に向けて反騰する公算が高い。従って、先週買い参入したトレーダーの中で上記の修正ポイントまでの下げに耐えられるなら保有しても良い。しかし、耐えきれないならネックライン割れで損切りをし、再度ネックラインを上回った所で再度買い参入する事を推奨する。



今週の相場風林語録

運勢達観(3)

…泰平も戦乱も、繁栄も衰落も、人間社会に避けられない流動で、相場の損得にしてもそれは同じである。

このことをしつかりわきまえておれば、焦ったり、怒ったり、絶望したりしない。またの機会に力をためていくことになる。